

基本目標

未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち

政策4 学校教育の推進



施策4-1 学校教育の推進

政策5 生涯学習の推進



施策5-1 生涯学習の推進

政策6 スポーツ・文化の振興



施策6-1 スポーツの振興

施策6-2 文化・芸術の振興

政策4 学校教育の推進

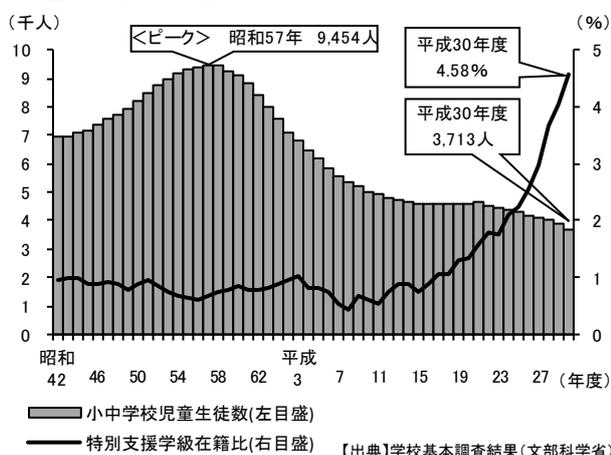
施策4-1 学校教育の推進

【現状】

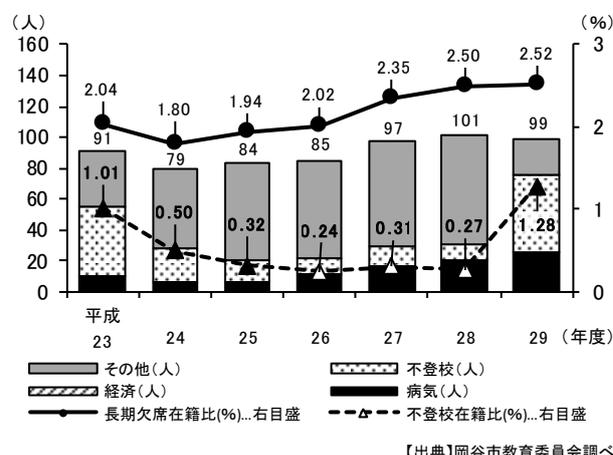
- 複雑な社会変化とグローバル化のさらなる進展が予測されます。
- 児童生徒数の減少が進み、特別な支援を必要とする児童生徒数が増加傾向にあります。
- 建築後30年以上経過している学校施設が8割以上と老朽化が進行しています。
- すべての小中学校が、それぞれの特色を活かしながら地域とともに魅力ある学校づくりを進めています。
- 子ども総合相談センターの相談支援体制が強化され、広く認知されています。

【資料・データ】

- 小中学校児童生徒数および特別支援学級在席比率の推移



- 長期欠席児童生徒数および在席比率の推移



【課題】

- 急激な社会変化とグローバル社会を生き抜くために必要となる、主体的な学びや、さまざまな人々とのかかわりの中で、みずから課題を解決する力を育むことが求められています。
- ふるさと岡谷に誇りと自信を持ち、郷土を愛する心を育み将来への夢や希望を持てる教育を推進する必要があります。
- いじめ・不登校問題や複雑化する家庭環境などさまざまな教育課題に対し、一人ひとりの児童生徒および家庭に寄り添った丁寧な対応や、専門的な視点を踏まえ、子ども総合相談センターを中心に家庭、学校、地域などが連携したチーム体制の充実が求められています。
- 子どもたちが安全で安心して学べる教育環境の整備が求められています。

【施策展開の方針】

- 「生き抜く力と創造力、知的好奇心あふれる心豊かなひとづくり」をめざして

【主な取り組み】

● 未来を切り拓く確かな学力の定着

急激な社会変化やグローバル社会に向けて、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、複雑化、多様化する社会に対応するための「学びに向かう力」、「知識・技能を活用する力」、「思考力・判断力・表現力」、「コミュニケーション能力」などの育成を図ります。

● 地域に根ざしたふるさと学習の推進

ものづくりに代表される、ふるさと「岡谷」のさまざまな地域資源を活かした、岡谷ならではの普遍的な学習スタイル「岡谷スタンダードカリキュラム」の展開により、岡谷の『ひと・もの・こと・こころ』に誇りと自信を持ち、郷土を愛する心を醸成します。また、「岡谷版コミュニティスクール」の展開により、地域に息づき、根付く魅力と活力ある学校づくりを進めるとともに、将来の夢や希望が描け、郷土を担う子どもの育成に向けたキャリア教育を推進します。

● 自立と共生につながる豊かな心と健やかな体を育む教育活動の充実

自立と共生につながる豊かな心を育むため、道徳教育などの充実を図り、自他の生命の尊重、自己有用感や自尊感情、他者への思いやりや困難を乗り越える力を育みます。また、いじめ・不登校や発達障がいなど、さまざまな支援が必要な児童生徒の教育的ニーズに対応するため、子ども総合相談センターの充実を図ります。

あらゆる学びと育ちの基盤となり、生涯を豊かに生き抜く力の重要な要素である、健全な心身の発達を促す、運動習慣や生活習慣の定着を図ります。

● 笑顔で安心して学べる教育環境の整備

安全で安心して学べる質の高い教育環境の充実を図るため、学校施設の老朽化対策を計画的に推進します。また、子どもたちにとってよりよい学習環境となるよう、学校施設の適正規模・適正配置を検討します。

子どもたちがさまざまな危機を予測し、みずからの安全をみずから守るための能力の育成に努めるとともに、学校安全について、家庭や地域と連携、協働した取り組みを推進します。

【成果指標(KPI)】

● 指標名：学校満足度(「学校経営概要まとめ」小中学校編)

● 指標内容：長野県が実施している「学校経営概要」の調査に基づく児童生徒へのアンケートの中で、「学校へいくのがとても、あるいは概ね楽しい」と答えた割合を学校満足度として捉えている。

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2018(平成 30)年度	終了時目標 2023 年度
学校満足度(小学校)	83.7%	90.0%
学校満足度(中学校)	86.3%	90.0%

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン	2019(平成 31)年度～2023 年度

政策5 生涯学習の推進

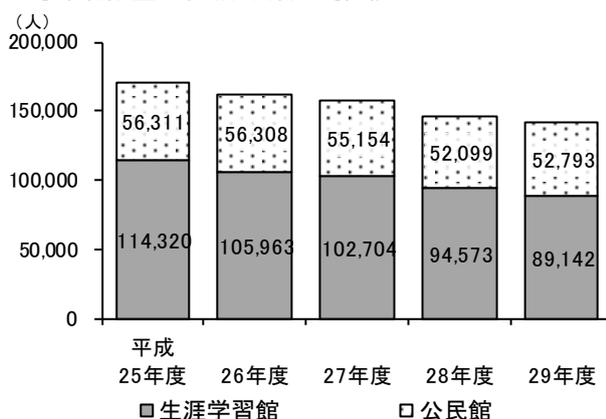
施策5-1 生涯学習の推進

【現状】

- 生涯学習の拠点である生涯学習館や公民館、図書館の利用が減少傾向にあります。
- 情報通信機器の普及や、生活上の困難を抱える家庭の増加など、子どもを取り巻く環境は急激に変化しています。

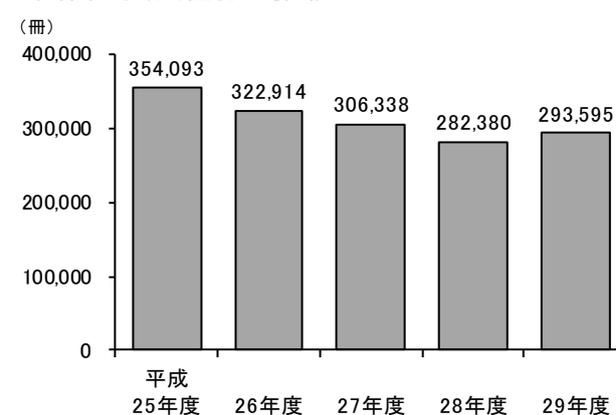
【資料・データ】

●学習講座の参加者数の推移



【出典】岡谷市教育部生涯学習課調べ

●図書館の貸出冊数の推移



【出典】岡谷市教育部生涯学習課調べ

【課題】

- 人生100年時代において、すべての人が生涯を通じてみずから学び続け、学んだことを生かして地域社会の成長、発展に向けて様々な場面で活躍することができる環境づくりが求められています。
- 青少年が地域に誇りと愛着をもち、まちづくりに主体的にかかわることができるよう、関係機関が連携した積極的な支援が必要です。
- 読書を通じて言葉を学び、感性を磨き、新しい時代に必要な資質や能力を育むため、特に子どもたちが進んで読書に親しむことができるような取り組みが必要です。
- 少子化や核家族化などを背景に、家庭や地域の教育力の低下が問題となっており、地域全体で親子の育ちを支えていくことが一層求められています。

【施策展開の方針】

- 「生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち」をめざして

【主な取り組み】

●生涯を通じた学びの推進

生涯学習に関する情報の発信により、市民の学習意欲の促進と、市民ニーズに応じた講座や時代の変化に応じた知識、技能を獲得する機会の充実に努めます。

また、生涯学習の指導者の発掘、確保に努めるとともに、学習グループや各種団体の活動を支援します。

●青少年の健全育成

家庭や学校、地域の団体と連携し、青少年が自主的、主体的に地域活動に参加できるようになるために、多様な体験活動や団体活動の機会を提供します。

●読書の推進

子どもから大人まで広く市民が読書に親しみの持てる環境を整えます。特に、子どもたちの読書習慣の定着を図るため、市立岡谷図書館と学校等施設との連携や、ボランティア団体などとの協働により、子どもの発達段階に応じた読書の機会提供と普及啓発に取り組みます。

●家庭・地域の教育力向上

子どもたちが人間性豊かに育つことができるよう、家庭、学校、地域と連携して、保護者を応援するための学習講座の開催や、親同士が交流できる機会を提供し、家庭と地域の教育力向上の支援に努めます。

【成果指標(KPI)】

●指 標 名：①学習講座の参加者数

②図書の貸出冊数

●指標内容：①生涯学習館、公民館における学習講座への年間延べ参加者数

②図書館、公民館、保育園、幼稚園における図書の年間貸出冊数(視聴覚資料含む)

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2017(平成 29)年度	終了時目標 2023 年度
①学習講座の参加者数	141,935 人	145,000 人
②図書の貸出冊数	293,595 冊	300,000 冊

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
第 5 次岡谷市生涯学習推進計画	2015(平成 27)年度～2019(平成 31)年度
第 3 次子ども読書活動推進計画	2019(平成 31)年度～2023 年度

政策 6 スポーツ・文化の振興

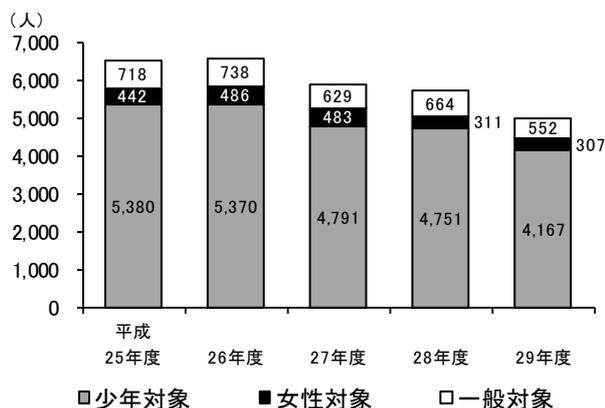
施策 6 - 1 スポーツの振興

【現状】

- (公財)岡谷市体育協会やスポーツ推進委員などと連携しながら、さまざまな大会をはじめとするスポーツイベントを開催し、市民の体力向上やスポーツ振興に取り組んでいますが、スポーツ施設の利用者数、スポーツ教室の参加者数ともに減少傾向にあります。
- 子どもの運動能力向上のための取り組みにより、元気にスポーツを楽しめる環境整備が進んでいます。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定によりスポーツに対する関心、意欲が高まっています。
- 建築後30年以上経過しているスポーツ施設の多くで老朽化が進行しています。

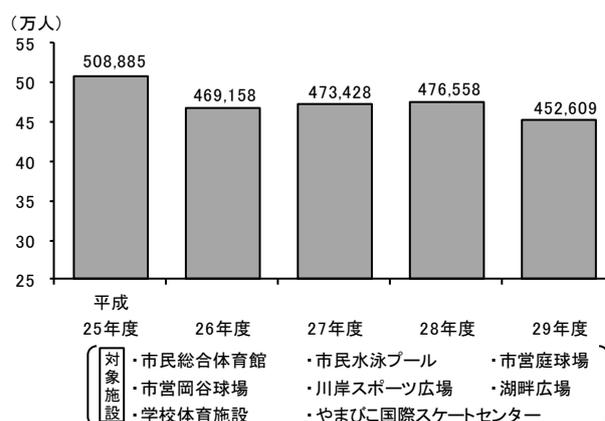
【資料・データ】

● スポーツ教室の参加者数の推移



【出典】岡谷市教育部スポーツ振興課調べ

● スポーツ施設合計利用者数の推移



対象施設
・市民総合体育館
・市営岡谷球場
・学校体育施設
・市民水泳プール
・川岸スポーツ広場
・やまびこ国際スケートセンター
・市営庭球場
・湖畔広場

【出典】岡谷市教育部スポーツ振興課調べ

【課題】

- 多くの市民がスポーツ活動にかかわりを持ち、誰もが気軽にスポーツに参加できる環境づくりが必要です。
- 小中学生の体力は、学年によっては国・県の平均と比べると低い水準にあるため、年齢や体力に応じたスポーツ機会の充実を図るとともに、スポーツ選手の競技水準の向上や育成強化、指導者の養成、将来を担う青少年やスポーツを支える人材の育成が必要です。
- 老朽化した施設の長寿命化を図るとともに、施設の有効活用を一層図ることが必要です。

【施策展開の方針】

- 「生涯にわたりスポーツに親しみ、たくましい心身をもつひとづくり」をめざして

【主な取り組み】

●市民ひとり1スポーツの実現

生涯にわたって運動スポーツに取り組めるように、スポーツ団体やスポーツ推進委員などと連携しながら、幅広い年齢層の市民や障がい者が楽しく参加できる各種教室、大会などの多様なスポーツ機会の充実を図り、健康を志向したスポーツ活動を推進します。

●競技力の向上

全国大会などの誘致や競技力向上のための教室、大会を開催します。また、全国大会で活躍できる選手の育成を支援するとともに、スポーツ指導者の養成を推進します。

●子どものスポーツ機会の充実

学校体育の活動の充実をはじめ、子どもたちの成長期に合わせた体力向上プログラムを充実し、基礎体力の向上を目指します。また、子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりとなるように、多様なスポーツ教室を提供します。

●スポーツ環境の整備・充実

市民一人ひとりが安全で快適なスポーツ活動を行えるように、スポーツ施設の長寿命化を計画的に進め、安全・安心な環境を整備します。

【成果指標(KPI)】

●指 標 名：①スポーツ施設利用者数

②週1回以上運動、スポーツをすると回答した人の割合

●指標内容：①スポーツ施設(市民総合体育館、市民水泳プール、市営庭球場、市営岡谷球場、川岸スポーツ広場、湖畔広場、学校体育施設、やまびこ国際スケートセンター)利用者の合計数

②市民アンケート調査で「週1回以上運動、スポーツをする」と回答した人の割合

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2017(平成29)年度	終了時目標 2023年度
①スポーツ施設利用者数	452,609人	460,000人
②週1回以上運動、スポーツをすると回答した人の割合	46.0%	65.0%

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
岡谷市スポーツ推進計画	2015(平成27)年度～2019(平成31)年度

政策 6 スポーツ・文化の振興

施策 6 - 2 文化・芸術の振興

【現状】

- カノラホールは、優れた舞台芸術の鑑賞や市民の文化創造の場、また次世代を担う人材育成の場として、地域文化の中心的な役割を果たしています。
- 蚕糸博物館は、蚕糸業の歴史、文化等を全国に発信し、後世に伝承するとともに、岡谷ブランドの発信拠点また観光拠点として多くの方が訪れています。
- 美術考古館は、郷土作家の作品や市内から出土した土器類などを中心とした展示や、ワークショップなどの開催により、情報の発信と交流の場を提供しています。
- イルフ童画館は、武井武雄生誕 120 年記念事業を契機に、全国的な知名度向上が図られています。
- 市内には製糸業の隆盛を物語る近代化産業遺産群をはじめ、日本遺産の構成文化財として認定された縄文時代の多くの遺産が継承されています。

【資料・データ】

- 施設入場者数の推移

(人)	平成 25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
カノラホール	111,279	99,449	94,287	96,656	99,080
蚕糸博物館	—	31,713	46,305	32,027	35,035
美術考古館	6,839	10,297	10,416	10,205	11,283
イルフ童画館	30,431	32,232	33,163	36,513	30,983

※蚕糸博物館：平成26年8月1日開館、美術考古館：平成25年11月3日開館

【課題】

- カノラホールは、舞台芸術文化の拠点として、優れた舞台芸術作品鑑賞や文化創造の場として、幅広い市民ニーズを踏まえた事業を実施する必要があります。
- 蚕糸博物館は、製糸工場を併設するわが国唯一の博物館として、魅力的な企画展等の開催、学習活動の促進により、市民をはじめ全国へ認知度を高める必要があります。
- 美術考古館は、まちなかの施設として、より魅力的な展示やイベント等の開催に努めるとともに、より多くの市民に訪れていただくような取り組みが必要です。
- イルフ童画館は、世代を超えた多くの人々に武井武雄作品のすばらしさを伝え、個性豊かな芸術文化の振興、次代を受け継ぐ童画家の育成支援に努める必要があります。
- 市民がふるさとの歴史を知り、ふるさに誇りと自信、そして愛着を持つことができるよう、文化財の保護、活用に努め、先人らの偉業を後世にわかりやすく継承していく必要があります。

【施策展開の方針】

- 文化施設の活用
- 文化芸術活動の促進
- 文化財の保護・活用

【主な取り組み】

●カノラホールの活用

舞台芸術文化の拠点として、優れた舞台芸術作品を鑑賞する機会の充実を図るほか、特色ある芸術作品の企画や製作に取り組むとともに、次代を担う人材、リーダーの育成や市民参加型事業の推進により、市民の芸術文化活動の活性化を図ります。

●蚕糸博物館の活用

養蚕、製糸業により育まれた文化、歴史、先人の偉業を全国に発信し、後世に伝承するとともに、製糸機械類を中心とした常設展示や製糸工場の動態展示の充実をめめます。また、魅力ある企画展や学習活動、体験講座等の開催により、新たなシルク文化を発信し、シルクのまちづくりを推進します。

●美術考古館の活用

地元出身作家による芸術作品や、市内の遺跡から出土した土器、土偶などを中心とする考古資料の展示を通じて、美術と考古双方の魅力を広く市民に発信します。また、学校教育での活用や、商店街との連携による賑わいの創出、市民の作品展示や幅広い年齢層が対象のイベント開催など、市民が気軽に立ち寄り、交流ができる学びの場を提供します。

●イルフ童画館の活用

武井武雄や所蔵する作品を中心とした企画展や特色あるワークショップを開催するとともに、武井武雄の生んだ童画文化の研究をより深め、活用を図ります。また、次代を担う若手童画家の発掘と支援、育成のため、日本童画大賞を開催し、童画のまちづくりを推進します。

●文化芸術活動の促進と人材育成

施設の特性を活かしながら各施設が連携し、市民が気軽に文化芸術活動に参加できる機会の充実や学習活動の促進を図るとともに、文化芸術団体の育成や指導者の養成に努めます。

●文化財の保護・活用と歴史の伝承

文化財の調査、収集および保存に努めるとともに、近代化産業遺産群や日本遺産を活用し、地域の魅力の情報発信に努めます。また、本市発展の歴史を市民共有の財産として後世に伝承し、将来のまちづくりに役立てるため、新たな岡谷市史の編纂に向けた準備を進めます。

【成果指標(KPI)】

●指 標 名：施設入場者数

●指標内容：各施設の3月31日時点における当該年度の入場者数

指標名	前期計画	
	現状(直近実績) 2017(平成 29)年度	終了時目標 2023 年度
カノラホール	99,080 人	109,000 人
蚕糸博物館	35,035 人	50,000 人
美術考古館	11,283 人	12,000 人
イルフ童画館	30,983 人	35,000 人

【施策展開のための個別計画】

計画名	計画期間
第5次岡谷市生涯学習推進計画	2015(平成 27)年度～2019(平成 31)年度

